

キーワード

思考力・判断力・表現力等の育成

標 題

「課題をつかみ、自分の考えをもつ」「交流する」「振り返る」という3つの学習過程を大切にしたい授業づくりに重点をおいた取組

①学校の概要（平成25年5月1日現在）

・児童生徒数327名 ・学級数14学級 ・教職員数38名

②取組を始めた経緯

○「いきいき学校園づくり」において、表現力の育成を石井中学校区共通のテーマと設定したことを受け、本校では、「自分の思いや考えを伝え合う子どもの育成」をテーマに、思考力・判断力・表現力等の育成を身につけるための授業づくりにポイントを絞って研究するようにした。

③取組の実施体制

校長→研究推進委員会→各部
(国際理解部・豊かな心づくり部・分かる授業づくり部・特別支援教育部)

④学力向上に向けた具体的な取組

1 学級経営

(1) 環境づくり

- 生活環境（あいさつをする、時間を守る、規範意識をもつ）
- 教室環境（美化、掲示物の工夫）
- 学習環境（支援的な雰囲気や共に学ぼう、挑戦しようとする雰囲気をつくる）

(2) 児童の人権を大切にしたい学級経営をする。

- 安心して学校生活を送れ、学習活動を積極的に行えるような環境づくりをする。学級経営や授業の「ユニバーサルデザイン」を取り入れる。

2 分かる授業

(1) 「課題をつかみ、自分の考えをもつ」「交流する」「振り返る」という3つの学習過程を大切にしたい授業づくりを常に念頭におき、1時間1時間の授業を大切にしたい。

(2) 児童にとって学習内容がわかる授業を行うための1つの手段として、ICT機器（実物投影機）・50インチテレビ等を積極的に活用している。

(3) 特別支援教育を指導の重点の1つにし、一人一人の実態に即し特別支援教育の視点を生かした授業づくりを心がける。

(4) 学習内容の定着を図るために家庭学習を充実させる。

3 多くの人との関わり

(1) 本校では、PTAの活動やオープンスクール・特色ある教育研究会等の授業公開、学校支援ボランティアによる援助など、外部からたくさんの人々が、教室に入ってきてくださり児童と関わってくれる環境が整っている。そのため、児童は、自分のがんばる姿をいつもいろいろな人に見られているという意識をもって活動している。このように「風通しのよい」環境になり、学校や教室が閉鎖的にならず児童も教師も刺激を受けて学習に取り組む。

⑤取組の成果と課題

○成果

- ・授業づくりを重視した研究を続けてきたことで、教員の授業力アップにつながる事ができた。
- ・交流する（話し合う）時間を意識的にとってきたことより、自分の思いや考えを進んで相手に伝えようとする児童の姿を多く見るようになった。

○課題

- ・自分の考えと相手の考えを比較しながら深めていくといった練り上げが十分でない場面が見られるので、今後の課題として研究していきたい。

⑥取組の継続・発展の要因

○特色ある教育（国際理解教育）

本校は、特色ある教育として「国際理解教育」について、長年にわたり取り組んでいる。学校全体で同じ目標をもちその達成をめざすことによって、教職員・保護者・児童にとって向かう方向がはっきりしており、一体感を強くもっている。そして、自分たちの学校に誇りと自信をもち、それが学習意欲を高めたり、学習環境をよりよいものにしようとしたりし、他教科等の学習にもよい影響を与えていると考える。本校の取組が継続できている大きな要因と考える。

⑦管理職・中核教員等のアクション

○若手教員を育てるという立場から、授業参観、指導案検討等積極的に進めていくようにしている。また、職場の雰囲気をもよおすために、職員間のコミュニケーションを積極的にとるようにしている。

○「若い教師を育てよう」「先輩教師に学ぼう」とする雰囲気が醸成されている。

⑧資料・写真等

